

明細書

認証装置及び被認証装置及び鍵更新方法

5 技術分野

本発明は、認証装置、被認証装置、或いは両者の鍵更新方法に関する。特に、ETC（ノンストップ自動料金支払いシステム）やドライブルール等、無線通信機能を有する移動体及び移動体通信システムに関する。

10

背景技術

利用者があるサービスを受けるとき、サービスを受けられる正当な利用者であるか本人確認（認証）が行われる。その際、鍵なし・期限切れ等の理由により認証に失敗するとサービスを受けることができない。

15 利用者は、鍵の更新等正当な利用者であるための手続きを怠ると、たとえ正当な利用者であっても（不正を行う意図はなくとも）、サービスを受けることができなくなるといった問題があった。

また、特開2003-196240号公報に記載の技術では、テンポ
20 ラリで認証が許可されてしまうため、過去に認証に成功していれば、その後何度でも認証されてしまい、認証装置にアクセス可能となることからセキュリティホールになりかねないといった問題があった。

また、特開平11-274999号公報、特開2000-13867
4号公報、特開2000-196588号公報に記載の技術では、双方
25 が保持している鍵の中から、使用鍵を決定しているに過ぎず、鍵更新をおこなうことができないといった問題があった。

本発明は、鍵更新をおこなうことで更新された鍵により正当な利用者

に対しては、サービスを提供し、サービスの可用性及び利用者の利便性を向上させることを目的とする。

発明の開示

5 この発明に係る認証装置は、認証用鍵を用いて被認証装置との間で認証処理をおこなう認証処理部と、

 上記認証処理部による認証処理に用いる認証用鍵を上記被認証装置が保持していない場合に新たな認証用鍵を生成し、上記認証処理部による認証処理に用いる認証用鍵を上記被認証装置が保持している場合で上記
10 認証処理部による上記被認証装置との間での認証処理が失敗した場合に上記認証用鍵の更新のために新たな認証用鍵を生成する更新鍵生成部とを備え、

 上記認証処理部は、上記更新鍵生成部により生成された新たな認証用鍵を用いて上記被認証装置との間での認証処理を再度おこなうことを特
15 徴とする。

 また、上記認証装置は、さらに、

 被認証装置から所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを受信する受信部を備え、

 上記更新鍵生成部は、上記受信部により受信された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とに基づいて、上記新たな認証用鍵を生成し、
20

 上記認証装置は、さらに、

 上記更新鍵生成部により生成された新たな認証用鍵を被認証装置に送信する送信部を備え、

25 上記認証処理部は、上記送信部により送信された新たな認証用鍵を用いて上記被認証装置との間での認証処理を再度おこなうことを特徴とす

る。

この発明に係る被認証装置は、所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを記憶する記憶部と、

5 認証用鍵を用いて被認証装置との間で認証処理をおこなう認証処理部と、

上記認証処理部による上記認証装置との間での認証処理が失敗した場合に、上記記憶部により記憶された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを認証装置に送信する送信部と、

10 上記認証装置から上記送信部により送信された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とに基づいた新たな認証用鍵を受信する受信部と

を備え、

15 上記認証処理部は、上記受信部により受信された新たな認証用鍵を用いて上記認証装置との間での認証処理を再度おこなうことを特徴とする。

また、上記受信部は、上記認証処理部による上記認証装置との間での認証処理が失敗した場合に、上記認証装置から所定の情報を受信し、

20 上記送信部は、上記受信部により所定の情報が受信された場合に、上記記憶部により記憶された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを認証装置に送信することを特徴とする。

この発明に係る鍵更新方法は、所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを記憶する被認証装置と、認証装置との間で認証用鍵を用いておこなう認証処理が失敗した場合に、上記認証装置から所定の情報を上記被認証装置に送信する第1の送信工程と、

25 上記第1の送信工程により上記認証装置から送信された所定の情報を上記被認証装置が受信する第1の受信工程と、

上記第 1 の受信工程により上記所定の情報が受信された後、上記被認証装置から上記記憶された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを上記認証装置に送信する第 2 の送信工程と、

5 上記第 2 の送信工程により送信された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを上記認証装置が受信する第 2 の受信工程と、

上記第 2 の受信工程により受信された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子

とに基づいて、上記認証装置が新たな認証用鍵を生成する生成工程と、

10 上記生成工程により生成された新たな認証用鍵を被認証装置に送信する第 3 の送信工程と、

上記第 3 の送信工程により送信された新たな認証用鍵を上記被認証装置が受信する第 3 の受信工程と、

15 上記第 3 の受信工程により受信された新たな認証用鍵を、上記被認証装置と認証装置との間での認証処理をおこなうための更新鍵として鍵更新をおこなう鍵更新工程と、

更新確認データを生成して上記認証装置へ送信する工程と、

更新確認データを受信し、確認する工程と
を備えたことを特徴とする。

20 図面の簡単な説明

図 1 は、実施の形態 1 における認証システムの構成を示す図である。

図 2 は、実施の形態 1 における認証システムの概念を示す図である。

図 3 は、実施の形態 1 における鍵更新方法の手順を示すフローチャート図である。

25 図 4 は、通信情報 1 のフレームの一例を示す図である。

図 5 は、通信情報 2 のフレームの一例を示す図である。

図 6 は、通信情報 3 のフレームの一例を示す図である。

図 7 は、通信情報 4 のフレームの一例を示す図である。

図 8 は、実施の形態 2 における鍵更新処理に至るまでの手順を示すフローチャート

5 図である。

図 9 は、ハードウェア構成図である。

発明を実施するための最良の形態

実施の形態 1.

10 以下に説明するように、被認証装置と認証装置との間での認証時、被認証装置が鍵なし又は被認証装置が有する鍵が有効期限切れであっても、認証失敗とするのではなく、鍵更新手段により鍵更新を実施し、その後、認証を行うものである。

図 1 は、実施の形態 1 における認証システムの構成を示す図である。

15 図 1 において、認証システムは、認証装置となる通信装置 100 と被認証装置となる通信装置 200 とを備えている。通信装置 100 は、アンテナ 101、通信処理部 110、記憶部 120、制御部 130、更新処理部 196、認証処理部 197 を備えている。通信処理部 110 は、受信部 111、送信部 112 を有している。更新処理部 196 は、暗号
20 処理部 140、乱数生成部 150、更新鍵生成部 160、個別鍵生成部 170、一時鍵生成部 180、更新用データ生成部 190、更新確認データチェック部 195 を有している。通信装置 200 は、アンテナ 201、通信処理部 210、記憶部 220、制御部 230、更新処理部 296、認証処理部 297 を備えている。通信処理部 210 は、受信部 21
25 1、送信部 212 を有している。更新処理部 296 は、暗号処理部 240、乱数生成部 250、一時鍵生成部 280、更新用データチェック部

290、更新確認データ生成部295を有している。実施の形態1では、通信装置100と通信装置200とは、アンテナ101、201を介して無線通信する場合を説明するが、これに限るものではなく有線通信であっても構わない。例えば、ETC（料金自動収集）、ドライブスルー等において、通信装置100は、店舗側の路側機として、通信装置200は、自動車側の車載機として構成される。

図2は、実施の形態1における認証システムの概念を示す図である。

例えば、ETC、ドライブスルー等において、通信装置100は、店舗側の路側機として、通信装置200は、自動車側の車載機として構成される場合、ETC、ドライブスルー等によるサービス提供において、店舗側の路側機は、起動後、認証処理を実施する状態で、利用者（自動車）の来店（通過）を待ち続ける。

利用者が来店すると、路側機は自動車に設置された車載機に対して認証要求を送信する。

車載機は路側機の指示にしたがって必要な情報を路側機に送信する。

路側機は、車載機から受け取った情報が古い或いは鍵がないと判断した場合、鍵更新の状態となり、車載機に対して鍵更新要求を実施する。

車載機は、路側機の指示にしたがって鍵更新を実施する。

鍵更新終了後、路側機は認証状態となり、車載機に対して認証処理を実施する。

言い換えれば、本実施の形態1における認証システム或いは認証方式は、鍵更新手段を備えている。そして、認証処理と更新処理が分離している。認証処理中は、更新処理はされない。

そして、鍵情報が古い又ははない場合、鍵更新を実施してから認証処理を実施する。すなわち、初期時（鍵情報がないとき）、鍵更新処理を実施する。或いは、通常運用時は認証処理を実施して、認証に用いる鍵情

報が古い場合、鍵更新処理を実施する。

図 3 は、実施の形態 1 における鍵更新方法の手順を示すフローチャート図である。

記憶部 120 は、所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子と
5、上記所定のアルゴリズム識別子に対応するアルゴリズムを記憶している。

記憶部 220 は、所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子と、
上記所定のアルゴリズム識別子に対応するアルゴリズムと所定の暗号
鍵識別子に対応する暗号鍵と装置固有番号とを記憶している。また、上
10記記憶部 220 は、古くなった或いは使用期限が過ぎた認証用鍵及びそ
の認証用鍵の識別子を記憶している。或いは、記憶部 220 は、認証用
鍵を記憶していない場合であってもよい。ここで、所定の暗号鍵識別子
は、鍵更新専用の鍵の識別子（更新用識別子）である。所定の暗号鍵識
別子に対応する暗号鍵は、鍵更新専用鍵である。この鍵更新専用の鍵の
15識別子及び鍵更新専用鍵は、初期時（例えば装置の出荷時）における新
規鍵生成に伴う鍵更新処理、或いは通常運用時に発生した鍵更新処理に
おいて、通信装置 100、200 間で互いに共有できる認証用鍵が存在
しない緊急時における別の新たな鍵生成に伴う鍵更新処理のいずれかの
場合に用いる。認証処理に用いることはない。

20 まず、認証処理部 197 は、被認証装置となる通信装置 200 との間
で認証処理をおこなう。言い換えれば、認証処理部 297 は、認証装置
となる通信装置 100 との間で認証処理をおこなう。認証処理の際、認
証用鍵を用いておこなう。ここで、記憶部 220 が、古くなった或いは
使用期限が過ぎた認証用鍵を記憶している場合、或いは、記憶部 220
25 が、認証用鍵を記憶していない場合、認証用鍵が使用できないので、こ
こでの認証処理は失敗に終わることになる。

S（ステップ）201において、乱数生成工程として、上記認証処理が失敗に終わると、乱数生成部150は、乱数1を生成する。

5 S202において、送信工程として、送信部112は、乱数生成部150により生成された乱数1（所定の情報の一例である）を通信情報1として通信装置200に送信する。通信装置100は、乱数1を通信情報1として通信装置200に送信することで、認証処理から鍵更新処理に移行したことを通信装置200へ知らせることになる。

10 S203において、受信工程として、受信部211は、送信部112により送信された乱数1を通信情報1として受信する。通信装置200では、受信部211が、乱数1を受信したことにより、通信装置100より鍵更新が要求されたと判断する。

S204において、認証処理工程の一部として、乱数生成部250は、乱数2を生成する。

15 S205において、送信工程として、送信部212は、上記記憶部220により記憶された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子と装置固有番号と、乱数生成部250により生成された乱数2とを通信情報2として認証装置である通信装置200に送信する。存在する場合には、古くなった或いは使用期限が過ぎた認証用鍵の識別子と対応するアルゴリズムの識別子とを一緒に送信する。ここで、1つのアルゴリズム識別子と1つの暗号鍵識別子とを1組みとしてプロファイルとして表し、通信情報2は、乱数2と装置固有番号と組数分のプロファイル数とプロファイル数分の各プロファイル識別子と各プロファイル識別子が表すプロファイルに組とされるアルゴリズム識別子と暗号鍵識別子とをデータとして有している。さらに、ここでは、各プロファイル識別子と各
20
25 プロファイル識別子が表すプロファイルに組とされるアルゴリズム識別子と暗号鍵識別子とを対応させたデータとしている。言い換えれば、上

記送信部 212 は、上記記憶部 220 により 1 つのアルゴリズム識別子と 1 つの暗号鍵識別子とを 1 組のプロファイルとして記憶された少なくとも 1 つのアルゴリズム識別子と少なくとも 1 つの暗号鍵識別子とを認証装置となる通信装置 100 に送信する。

- 5 S206 において、受信工程として、受信部 111 は、被認証装置となる通信装置 200 から、乱数 2 と装置固有番号と組数分のプロファイル数とプロファイル数分の少なくとも 1 つのプロファイル識別子と少なくとも 1 つのプロファイル識別子の各プロファイル識別子に対応した少なくとも 1 つのアルゴリズム識別子と少なくとも 1 つの暗号鍵識別子とを有する通信情報 2 を受信する。

- 10 S207 において、生成工程として、更新鍵生成部 160 は、上記受信部 111 により受信された少なくとも 1 つのアルゴリズム識別子と少なくとも 1 つの暗号鍵識別子との中から上記鍵更新専用の鍵の識別子である所定の暗号鍵識別子と所定の暗号鍵識別子に対応する上記所定のアルゴリズム識別子とを選択する。そして、更新鍵生成部 160 は、上記
15 受信部 111 により受信された装置固有番号等たとえばハッシュ値等を用いて更新鍵となる新たな認証用鍵を生成する。言い換えれば、更新鍵生成部 160 は、上記受信部 111 により受信された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とに基づいて、上記認証処理部 197
20 による認証処理に用いる認証用鍵を上記被認証装置となる通信装置 200 が保持していない場合に新たな認証用鍵を生成し、上記認証処理部 197 による認証処理に用いる認証用鍵を上記被認証装置となる通信装置 200 が保持している場合で上記認証処理部 197 による上記被認証装置となる通信装置 200 との間での認証処理が失敗した場合に上記認証
25 用鍵の更新のために新たな認証用鍵を生成する。

S208 において、個別鍵生成工程として、個別鍵生成部 170 は、

上記更新鍵生成部 160 により選択された所定の暗号鍵識別子に対応する暗号鍵となる通信装置 200 が有している鍵更新専用鍵となる個別鍵を更新鍵生成部 160 と同様の方法で生成する。

5 S 209 において、一時鍵生成工程として、一時鍵生成部 180 は、
上記更新鍵生成部 160 により選択された所定のアルゴリズム識別子に対応するアルゴリズムを用いて所定の暗号鍵識別子に対応する暗号鍵となる個別鍵生成部 170 により生成された個別鍵で乱数 1, 2 を暗号処理部 140 を用いて暗号化し、鍵更新処理用暗号鍵の一例となる一時鍵を生成する。

10 S 210 において、更新用データ生成工程として、更新用データ生成部 190 は、乱数 2 のすべて或いは一部と、更新鍵となる新たな認証用鍵とを暗号処理部 140 により一時鍵生成部 180 により生成された一時鍵で暗号化することにより更新用データを生成する。

15 S 211 において、送信工程として、送信部 112 は、上記更新鍵生成部 160 により選択された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子と所定のプロフィール識別子と更新用データ生成部 190 により生成された更新用データとを通信情報 3 として上記被認証装置となる通信装置 200 に送信する。

20 S 212 において、受信工程として、受信部 211 は、上記認証装置となる通信装置 100 から上記送信部 212 により送信された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子と所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とに対応するプロフィール識別子と更新用データとを通信情報 3 として受信する。言い換えれば、上記受信部 211 は、上記認証装置となる通信装置 100 から上記送信部 212 により送信された
25 所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とに基づいた新たな認証用鍵を受信する。

S 2 1 3において、確認工程として、暗号処理部 2 4 0 は、受信部 2 1 1 により受信されたプロフィール識別子を確認し、プロフィール識別子に対応する所定の暗号鍵識別子と所定のアルゴリズム識別子とを確認する。

- 5 S 2 1 4において、一時鍵生成工程として、一時鍵生成部 2 8 0 は、受信部 2 1 1 により受信され、暗号処理部 2 4 0 により確認された所定のアルゴリズム識別子に対応するアルゴリズムを用いて、記憶部 2 2 0 に記憶された個別鍵で乱数 1, 2 を暗号処理部 2 4 0 を用いて暗号化し、更新処理用暗号鍵の一例となる上記一時鍵を生成する。以上により通信装置 1 0 0, 2 0 0 間で同じ一時鍵という鍵共有ができたことになる。
- 10 。なお、この実施形態では、一時鍵生成部 1 8 0, 2 8 0 が一時鍵生成の際、個別鍵で暗号化したが、認証装置と被認証装置とが同じ処理を実施すればよい。ため、復号してもよい。

- 15 S 2 1 5において、更新用データチェック工程として、更新用データチェック部 2 9 0 は、受信部 2 1 1 により通信情報 3 として受信された暗号化されている更新用データを一時鍵生成部 2 8 0 により生成された一時鍵により暗号処理部 2 4 0 を用いて復号する。

- 20 S 2 1 6において、鍵更新工程の一部として、更新用データチェック部 2 9 0 は、復号した更新用データのデータが、通信装置 2 0 0 が通信装置 1 0 0 に送信した乱数 2 のすべて或いは一部であるかどうかを確認する。復号した更新用データのデータが乱数 2 のすべて或いは一部であれば、不正の攻撃者との間ではなく、通信装置 1 0 0 との間で認証処理のための通信がきちっと行なわれていることを意味する。言い換えれば、通信装置 1 0 0, 2 0 0 間での認証処理の一方が成功したことを意味する。
- 25 そして、更新用データチェック部 2 9 0 は、復号することによって得られた上記受信部 2 1 1 により受信された新たな認証用鍵を、上記

通信装置 100 と通信装置 200 との間での認証処理をおこなうための更新鍵として鍵更新をおこなう。更新鍵は、記憶部 220 に記憶される。

5 S 217 において、更新確認データ生成工程として、更新確認データ生成部 295 は、乱数 1 のすべて或いは一部を暗号処理部 240 により一時鍵生成部 280 により生成された一時鍵で暗号化することにより更新確認データを生成する。

S 218 において、送信工程として、送信部 212 は、更新確認データ生成部 295 により生成された更新確認データを通信情報 4 として通信装置 100 に送信する。

S 219 において、受信工程として、受信部 111 は、通信装置 200 から更新確認データを通信情報 4 として受信する。

15 S 220 において、更新確認データチェック工程として、更新確認データチェック部 195 は、受信部 111 により通信情報 4 として受信された暗号化されている更新確認データを一時鍵生成部 180 により生成された一時鍵により暗号処理部 140 を用いて復号する。

20 S 221 において、更新確認データチェック工程として、更新確認データチェック部 195 は、復号した更新確認データのデータが、通信装置 100 が通信装置 200 に送信した乱数 1 のすべて或いは一部であるかどうかを確認する。復号した更新確認データのデータが乱数 1 のすべて或いは一部であれば、不正の攻撃者との間ではなく、通信装置 200 との間で認証処理のための通信がきちっと行なわれていることを意味する。言い換えれば、通信装置 100、200 間での認証処理の他方が成功したことを意味する。

25 以上により、通信装置 100、200 間での鍵更新処理が終了し、その後、上記認証処理部 197 は、上記更新鍵生成部 160 により生成さ

れた新たな認証用鍵を用いて上記被認証装置となる通信装置 200 との間での認証処理を再度おこなう。言い換えれば、上記認証処理部 297 は、上記受信部 211 により受信された新たな認証用鍵を用いて上記認証装置となる通信装置 100 との間での認証処理を再度おこなう。

5 図 4 は、通信情報 1 のフレームの一例を示す図である。

 図 4 において、通信情報 1 は、ヘッダと乱数 1 データを有している。

 図 5 は、通信情報 2 のフレームの一例を示す図である。

 図 5 において、通信情報 2 は、ヘッダと乱数 2 データと装置固有番号
(装置固有 No.) とプロファイル数 (Profile 数) と各プロフ
10 ファイルを識別するプロファイル識別子としての Profile 1, . . .
 ・ Profile n と、各プロファイル識別子に対応するアルゴリズム
 識別子 (アルゴリズム ID) と暗号鍵識別子 (鍵 ID) とを有してい
 る。プロファイルの最終番号に鍵更新専用の鍵の識別子 (更新用識別子
) と更新用識別子に対応するアルゴリズム識別子が記載されている。図
15 5 では、各プロファイル識別子と各プロファイル識別子に対応するアル
 ゴリズム識別子と暗号鍵識別子とは、対応関係がわかるようにデータが
 構成されている。

 図 6 は、通信情報 3 のフレームの一例を示す図である。

 図 6 において、通信情報 3 は、ヘッダと選択された所定のプロファイ
20 ルを識別する所定のプロファイル識別子としての Profile n と
 、所定のプロファイル識別子に対応するアルゴリズム識別子 (アルゴリ
 ズム ID) と暗号鍵識別子 (鍵 ID) と更新用データとを有している。
 図 5 では、所定のプロファイル識別子と所定のプロファイル識別子に対
 応するアルゴリズム識別子と暗号鍵識別子とは、対応関係がわかるよう
25 にデータが構成されている。

 図 7 は、通信情報 4 のフレームの一例を示す図である。

図 7 において、通信情報 4 は、ヘッダと更新確認データとを有している。

ここで、制御部 130 は、通信装置 100 の各部を制御する。また、制御部 230 は、通信装置 200 の各部を制御する。また、記憶部 120 は、通信装置 100 の各部で行なわれる処理中に生じるデータを記憶する。また、記憶部 220 は、通信装置 200 の各部で行なわれる処理中に生じるデータを記憶する。

以上のように、本実施の形態 1 における鍵更新方法は、所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを記憶する被認証装置と、認証装置との間で認証用鍵を用いておこなう認証処理が失敗した場合に、上記認証装置から所定の情報を上記被認証装置に送信する第 1 の送信工程と、上記第 1 の送信工程により上記認証装置から送信された所定の情報を上記被認証装置が受信する第 1 の受信工程と、上記第 1 の受信工程により上記所定の情報が受信された後、上記被認証装置から上記記憶された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを上記認証装置に送信する第 2 の送信工程と、上記第 2 の送信工程により送信された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを上記認証装置が受信する第 2 の受信工程と、上記第 2 の受信工程により受信された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とに基づいて、上記認証装置が新たな認証用鍵を生成する生成工程と、上記生成工程により生成された新たな認証用鍵を被認証装置に送信する第 3 の送信工程と、上記第 3 の送信工程により送信された新たな認証用鍵を上記被認証装置が受信する第 3 の受信工程と、上記第 3 の受信工程により受信された新たな認証用鍵を、上記被認証装置と認証装置との間での認証処理をおこなうための更新鍵として鍵更新をおこなう鍵更新工程と、更新確認データを生成して上記認証装置へ送信する工程と、更新確認データを受信し、確認する工程

とを備えている。

また、例えば、ETC、ドライブスルー等において、通信装置100は、店舗側の路側機として、通信装置200は、自動車側の車載機として構成される場合、以上のように、この認証方式を実施する車載機は、
5 路側機からの指示に従って鍵更新へ状態が切り替わる（鍵更新を実施する）。そして、車載機が自身の判断により鍵更新へ状態が切り替わったり、鍵更新を要求することはない。また、この認証方式を実施する路側機は、車載機に対して鍵情報を要求及びチェックし、必要であれば鍵更新を車載機に指示する。すなわち、路側機主導で処理が行なわれる。

10 また、ここでは、一例として、ETC、ドライブスルー等での自動車（車載機）と路側機（店舗システム）とに適用し、想定したが、通信装置は限定するものではない。例えば、基地局と携帯電話、無線LAN（基地局とパソコン）、R/W（リーダー/ライター）とRF Tag（電子タグ）といった固定局と移動局とにおける通信はもちろんのこと、
15 モバイルとモバイルの通信等にも適用できる。

以上のように、本実施の形態によれば、鍵なし・期限切れ等の場合であっても鍵の更新をおこなうことができ、その後に正当な利用者がサービスの提供を受けることができ、本発明を利用するシステムのサービスの可用性及び利用者の利便性を向上させることができる。

20 また、本実施の形態によれば、さらに、セットアップ作業が不要となる。具体的には、例えば、車載機の出荷時及び店舗にて自動車に設置時、暗号通信に用いる鍵等車載機固有情報のセットアップが不要となる。そのため、製造においては同一の車載機を生産することができ生産効率が向上する。車載機固有の情報は、システムのセキュリティを維持するために重要なものであるため、セットアップ時の固有情報の取得は登録
25 ・作業者の限定といった細かな制限事項が発生する。しかし、セットア

ップ作業が不要なためどの業者でも設置でき流通コスト及び作業が軽減される。

実施の形態 2.

図 8 は、実施の形態 2 における鍵更新処理に至るまでの手順を示すフローチャート図である。

S 8 0 1 において、認証処理部 1 9 7 は、被認証装置となる通信装置 2 0 0 との間で認証処理をおこなう。言い換えれば、認証処理部 2 9 7 は、認証装置となる通信装置 1 0 0 との間で認証処理をおこなう。認証処理の際、認証用鍵を用いておこなう。ここで、記憶部 2 2 0 が、古くなった或いは使用期限が過ぎた認証用鍵を記憶している場合、或いは、記憶部 2 2 0 が、認証用鍵を記憶していない場合、認証用鍵が使用できないので、ここでの認証処理は失敗に終わることになる。

S 8 0 2 において、送信部 1 1 2 は、認証処理が失敗に終わったことを示す失敗データを通信装置 2 0 0 に送信する。

S 8 0 3 において、受信部 2 1 1 は、通信装置 1 0 0 より失敗データを受信する。

S 8 0 4 において、送信部 2 1 2 は、失敗データを受信したことを示す確認データ (A c k) を通信装置 1 0 0 に送信 (返信) する。

S 8 0 5 において、通信装置 1 0 0 は、図 3 に示す鍵更新方法による鍵更新処理を開始する。

実施の形態 1 では、認証処理部 1 9 7 が、認証処理が失敗に終わったと判断した場合に、直ちに図 3 に示す鍵更新方法による鍵更新処理を開始するが、図 8 に示すように、認証処理が失敗に終わったことを通信装置 1 0 0, 2 0 0 間で確認した後に鍵更新方法による鍵更新処理を開始するようにしてもよい。

図 9 は、ハードウェア構成図である。

以上の説明において、各実施の形態の説明において「～部」として説明したものを、一部或いはすべてコンピュータで動作可能なプログラムにより構成する場合、図9に示すように、通信装置100、200は、プログラムを実行するCPU (Central Processing Unit) 37を備えている。CPU 37は、内蔵された、或いはバス38を介してRAM (Random Access Memory) 40 (記憶装置、記憶部の一例である)、外部と通信可能な通信ポート44に接続されている。また、図9に示すように、ROM (Read Only Memory) 39、磁気ディスク装置46等の記憶装置に接続されていても構わない。

プログラムにより構成する場合、図9におけるプログラム群49には、各実施の形態の説明において「～部」として説明したものにより実行されるプログラムが記憶されている。プログラム群49は、上記記憶装置に記憶されている。プログラム群49は、CPU 37、OS 47等により実行される。記憶装置は、各処理の結果を記憶する。

また、各実施の形態の説明において「～部」として説明したものは、ROM 39に記憶されたファームウェアで実現されていても構わない。或いは、ソフトウェア或いは、ハードウェア或いは、ソフトウェアとハードウェアとファームウェアとの組み合わせで実施されても構わない。

また、上記各実施の形態を実施させるプログラムは、FD (Flexible Disk)、光ディスク、CD (コンパクトディスク)、MD (ミニディスク)、DVD (Digital Versatile Disk) 等のその他の記録媒体による記録装置を用いて記憶されても構わない。係る場合には、図9に示すように、FDD (Flexible Disk Drive) 45、コンパクトディスク装置 (CDD) 86等を備える。

産業上の利用可能性

このような通信装置 100, 200 は、ETC、ドライブスルー等における店舗側の路側機と自動車側の車載機に限らず、携帯電話等の移動
5 体通信装置間、有線の通信装置間、或いは基地局を経由した有線と無線
の通信装置間等における認証装置、被認証装置として、使用することができる。

本発明によれば、鍵なし・期限切れ等の場合であっても鍵の更新をお
こなうことができ、その後に正当な利用者がサービスの提供を受けるこ
10 とができ、本発明を利用するシステムのサービスの可用性及び利用者の
便性を向上させることができる。

請求の範囲

1. 認証用鍵を用いて被認証装置との間で認証処理をおこなう認証処理部と、

- 5 上記認証処理部による認証処理に用いる認証用鍵を上記被認証装置が保持していない場合に新たな認証用鍵を生成し、上記認証処理部による認証処理に用いる認証用鍵を上記被認証装置が保持している場合で上記認証処理部による上記被認証装置との間での認証処理が失敗した場合に上記認証用鍵の更新のために新たな認証用鍵を生成する更新鍵生成部と
- 10 を備え、

 上記認証処理部は、上記更新鍵生成部により生成された新たな認証用鍵を用いて上記被認証装置との間での認証処理を再度おこなうことを特徴とする認証装置。

2. 上記認証装置は、さらに、

- 15 被認証装置から所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを受信する受信部を備え、

 上記更新鍵生成部は、上記受信部により受信された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とに基づいて、上記新たな認証用鍵を生成し、

- 20 上記認証装置は、さらに、

 上記更新鍵生成部により生成された新たな認証用鍵を被認証装置に送信する送信部を備え、

- 上記認証処理部は、上記送信部により送信された新たな認証用鍵を用いて上記被認証装置との間での認証処理を再度おこなうことを特徴とする請求項1記載の認証装置。
- 25

3. 所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを記憶する

記憶部と、

認証用鍵を用いて被認証装置との間で認証処理をおこなう認証処理部と、

5 上記認証処理部による上記認証装置との間での認証処理が失敗した場合に、上記記憶部により記憶された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを認証装置に送信する送信部と、

上記認証装置から上記送信部により送信された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とに基づいた新たな認証用鍵を受信する受信部と

10 を備え、

上記認証処理部は、上記受信部により受信された新たな認証用鍵を用いて上記認証装置との間での認証処理を再度おこなうことを特徴とする被認証装置。

4. 上記受信部は、上記認証処理部による上記認証装置との間での
15 認証処理が失敗した場合に、上記認証装置から所定の情報を受信し、

上記送信部は、上記受信部により所定の情報が受信された場合に、上記記憶部により記憶された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを認証装置に送信することを特徴とする請求項3記載の被認証装置。

20 5. 所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを記憶する被認証装置と、認証装置との間で認証用鍵を用いておこなう認証処理が失敗した場合に、上記認証装置から所定の情報を上記被認証装置に送信する第1の送信工程と、

25 上記第1の送信工程により上記認証装置から送信された所定の情報を上記被認証装置が受信する第1の受信工程と、

上記第1の受信工程により上記所定の情報が受信された後、上記被認

証装置から上記記憶された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを上記認証装置に送信する第2の送信工程と、

上記第2の送信工程により送信された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを上記認証装置が受信する第2の受信工程と、

- 5 上記第2の受信工程により受信された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子

とに基づいて、上記認証装置が新たな認証用鍵を生成する生成工程と、

上記生成工程により生成された新たな認証用鍵を被認証装置に送信する第3の送信工程と、

- 10 上記第3の送信工程により送信された新たな認証用鍵を上記被認証装置が受信する第3の受信工程と、

上記第3の受信工程により受信された新たな認証用鍵を、上記被認証装置と認証装置との間での認証処理をおこなうための更新鍵として鍵更新をおこなう鍵更新工程と、

- 15 更新確認データを生成して上記認証装置へ送信する工程と、

更新確認データを受信し、確認する工程と
を備えたことを特徴とする鍵更新方法。

6. 所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを記憶する被認証装置と、認証装置との間で認証用鍵を用いておこなう認証処理が
20 失敗した場合に、上記認証装置から所定の情報を上記被認証装置に送信し、

上記認証装置から送信された所定の情報を上記被認証装置が受信し、

- 上記所定の情報が受信された後、上記被認証装置から上記記憶された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを上記認証装置に送信し、
25 送信された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とを上記

認証装置が受信し、

受信された所定のアルゴリズム識別子と所定の暗号鍵識別子とに基づいて、上記認証装置が新たな認証用鍵を生成し、

生成された新たな認証用鍵を被認証装置に送信し、

5 送信された新たな認証用鍵を上記被認証装置が受信し、

受信された新たな認証用鍵を、上記被認証装置と認証装置との間での認証処理をおこなうための更新鍵として鍵更新をおこない、

更新確認データを生成して上記認証装置へ送信し、

更新確認データを受信し、確認することを特徴とする鍵更新方法。

1/6

図1

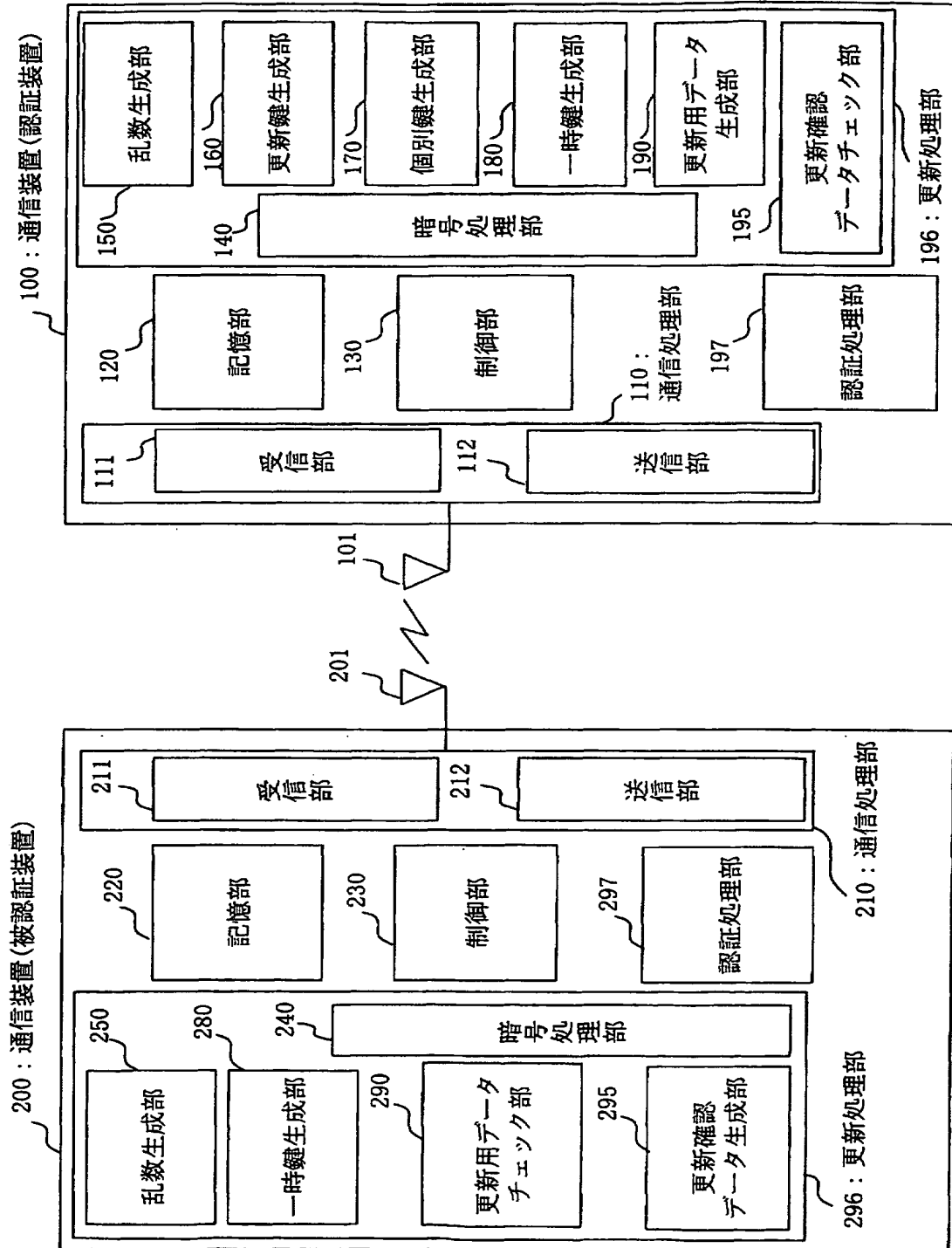
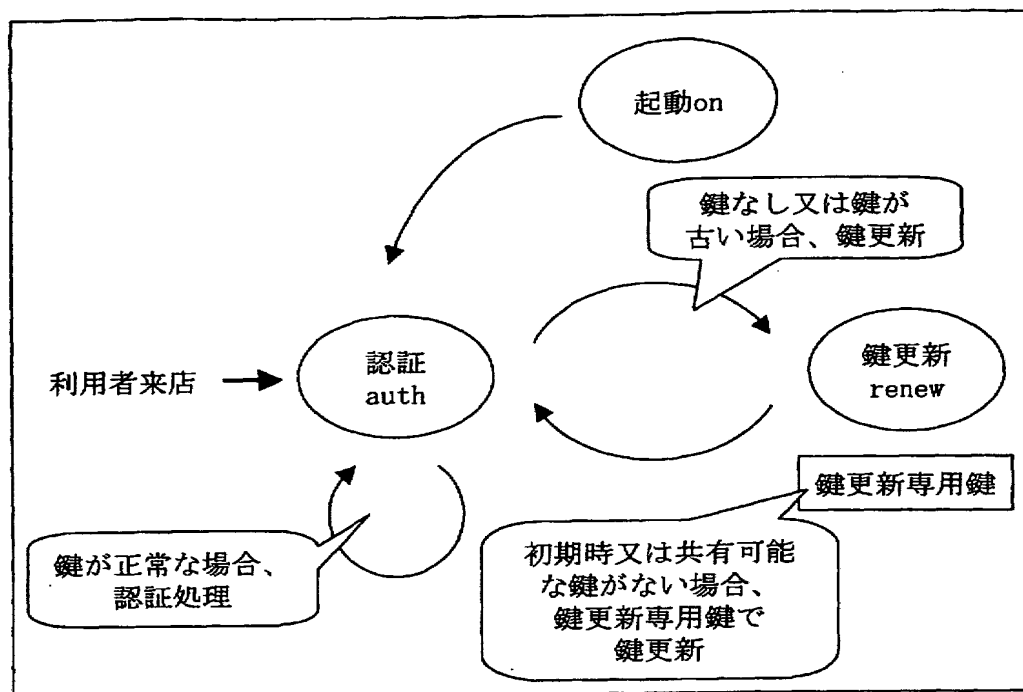
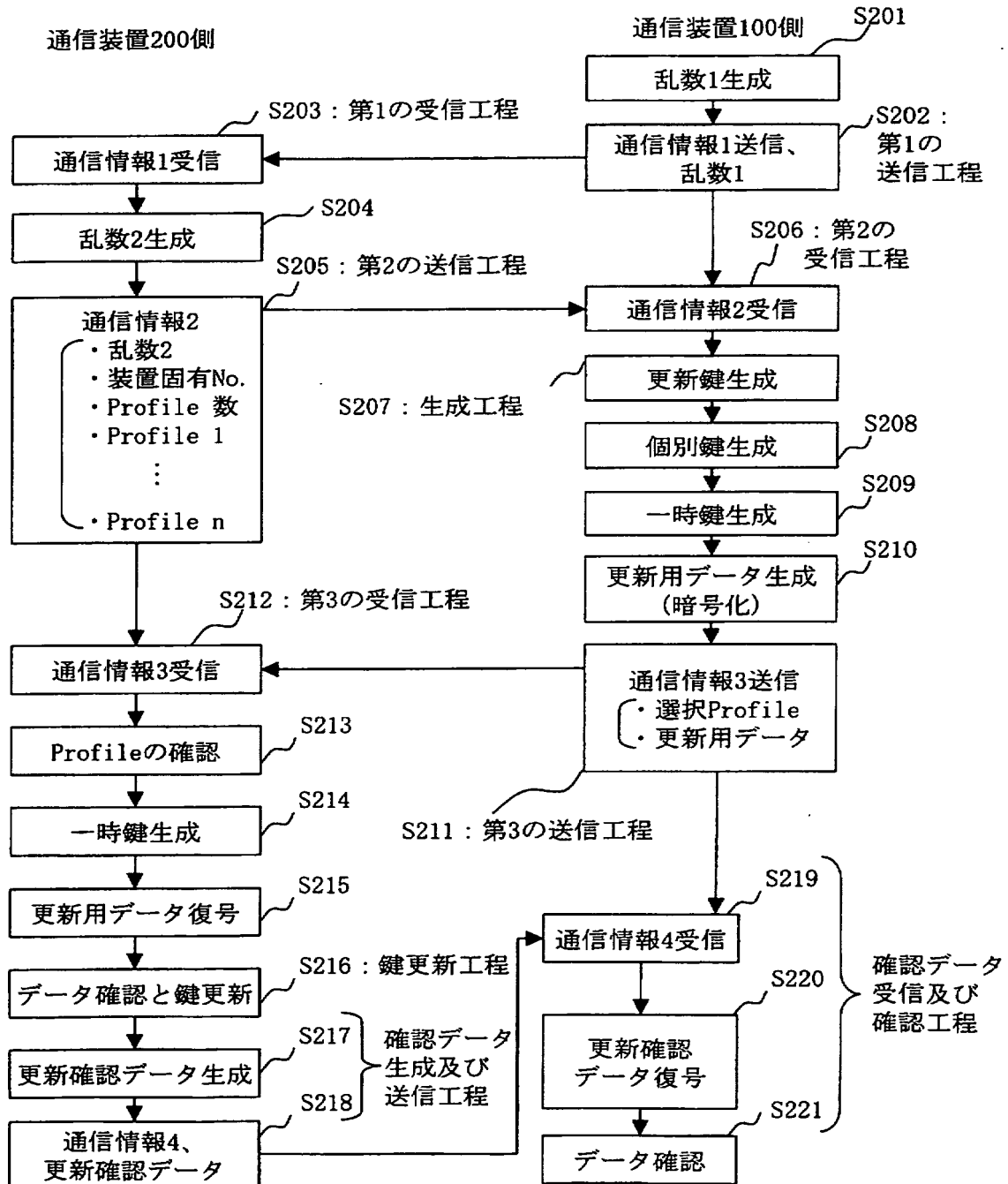


图2



3/6

図3



4/6

図4

通信情報1

ヘッダ
乱数1

図5

通信情報2

ヘッダ		
乱数2		
装置固有No.		
Profile 数		
Profile 1	アルゴリズムID	鍵ID
.	.	.
.	.	.
.	.	.
Profile n	アルゴリズムID	鍵ID (更新用識別子)

図6

通信情報3

ヘッダ		
Profile n	アルゴリズムID	鍵ID (更新用識別子)
更新用データ		

5/6

図7

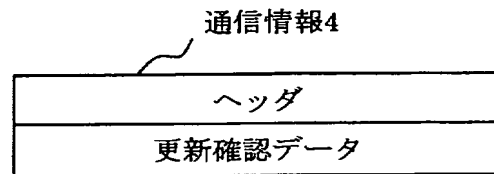
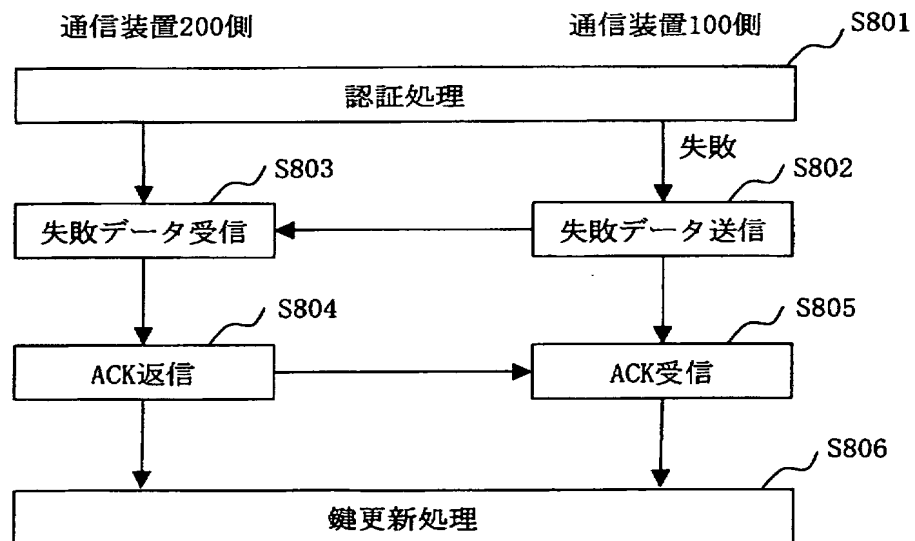
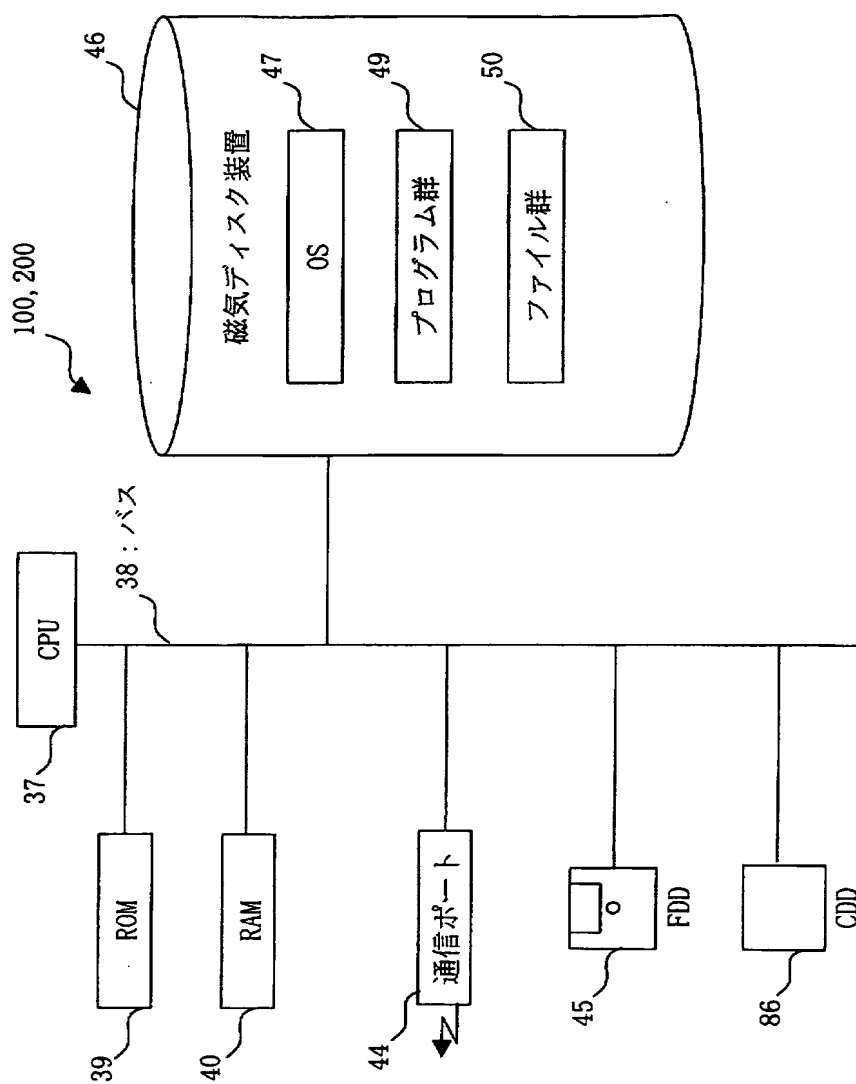


図8



6/6

図9



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/005879

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl.⁷ H04L9/32, H04L9/14

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl.⁷ H04L9/32, H04L9/14

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2004

Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2004 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2004

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2001-357370 A (Sony Corp.), 26 December, 2001 (26.12.01), Figs. 41 to 50 (Family: none)	1-6
A	JP 11-85014 A (Teruo MATSUMOTO), 30 March, 1999 (30.03.99), Par. No. [0017] (Family: none)	1-6

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
14 July, 2004 (14.07.04)

Date of mailing of the international search report
03 August, 2004 (03.08.04)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))		
Int. Cl ⁷ H04L 9/32, H04L 9/14		
B. 調査を行った分野		
調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))		
Int. Cl ⁷ H04L 9/32, H04L 9/14		
最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの 日本国実用新案公報 1922-1996年 日本国公開実用新案公報 1971-2004年 日本国登録実用新案公報 1994-2004年 日本国実用新案登録公報 1996-2004年		
国際調査で使用了電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)		
C. 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	J P 2001-357370 A (ソニー株式会社) 2001. 12. 26, 第41-50図 (ファミリーなし)	1-6
A	J P 11-85014 A (松本輝夫) 1999. 03. 30, 【0017】段落 (ファミリーなし)	1-6
<input type="checkbox"/> C欄の続きにも文献が列挙されている。 <input type="checkbox"/> パテントファミリーに関する別紙を参照。		
* 引用文献のカテゴリー 「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの 「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの 「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す) 「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願日の後に公表された文献 「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの 「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの 「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの 「&」 同一パテントファミリー文献		
国際調査を完了した日 14. 07. 2004	国際調査報告の発送日 03. 8. 2004	
国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 石田 信行	5M 9469
電話番号 03-3581-1101 内線 3598		